

国海査第 360 号の 2

令和 7 年 12 月 24 日

関係団体 代表等 各位

国土交通省 海事局

検査測度課長 池 田 隆 之

(公印省略)

船舶検査の方法の一部改正について (通知)

今般、船舶検査の方法 (平成 9 年 6 月 16 日付け海検第 40 号) の一部を別添のとおり改正し、令和 7 年 12 月 24 日から施行することとしましたので、お知らせします。

船舶検査の方法の一部改正について

1. 改正の経緯

令和 8 年 1 月 1 日施行の SOLAS 条約附属書の改正内容を担保する船舶設備規程等の一部改正等に対応するため、船舶検査の方法について所要の改正を行う。

2. 改正の内容

(1) 船舶検査の方法 B 編関係

- ① 電子傾斜計の検査の方法の新設
- ② 揚貨装置の検査の方法の改正

(2) 船舶検査の方法附属書 E 関係

- ① 電子傾斜計の検査の方法の新設
- ② アンカーハンドリングウインチの検査の方法の新設

(3) 船舶検査の方法附属書 F 関係

救命艇の点検、保守、詳細検査、作動試験、オーバーホール及び修理の具体的な手順の一部改正

(4) その他所要の改正

3. 適用時期

本通達日から適用する。

ただし、B 編第 1 章 1.7.5-31(2)及び同編第 2 章 2.6.4-23.(9)については、船橋からの視界及び船橋に設ける窓の要件を定める告示等の一部を改正する告示(令和 7 年国土交通省令第 1816 号)による改正要件が適用されるときから適用する。

○ 船舶検査の方法（平成9年6月16日付け海検第40号） 一部改正 新旧対照表（案）

（傍線の部分は部分改正箇所、二重傍線の部分は全改正箇所）

改正後	改正前	備考
<p>B 編 一般の船舶及びこれに備える物件に係る検査</p> <p>第1章 第1回定期検査等</p> <p>1.1～1.6（略）</p> <p>1.7 一般設備</p> <p>1.7.1～1.7.4（略）</p> <p>1.7.5 航海用具</p> <p>1.7.5-1～1.7.5-19（略）</p> <p><u>1.7.5-19-2. 電子傾斜計(設備規程 146-27-2、用具告示 22-2)</u></p> <p><u>次の検査を行う。</u></p> <p><u>(1)自己診断機能により機能が正常なことを確かめる。</u></p> <p><u>(2)磁気コンパスに対し、その電子傾斜計に示されている安全</u></p> <p><u>距離が保たれていることを確かめる。</u></p> <p>1.7.5-20～1.7.5-30（略）</p> <p>1.7.5-31. 監視装置(設備規程 146-46、用具告示 36)</p> <p><u>次の検査を行う。</u></p> <p><u>(1)作動試験を行う。</u></p> <p><u>(2)映像を録画し、かつ、記録した映像を再生することができ</u></p> <p><u>ることを確かめる。</u></p> <p>1.7.5-32～1.7.5-35（略）</p> <p>1.7.6 復原性計算機等</p> <p>1.7.6-1.（略）</p> <p><u>1.7.6-2. 旅客船の損傷時復原性に関する事項を計算するこ</u></p>	<p>B 編 一般の船舶及びこれに備える物件に係る検査</p> <p>第1章 第1回定期検査等</p> <p>1.1～1.6（略）</p> <p>1.7 一般設備</p> <p>1.7.1～1.7.4（略）</p> <p>1.7.5 航海用具</p> <p>1.7.5-1～1.7.5-19（略）</p> <p>（新設）</p> <p>（新設）</p> <p>（新設）</p> <p>1.7.5-20～1.7.5-30（略）</p> <p>1.7.5-31. 監視装置(設備規程 146-46、用具告示 36)</p> <p>（新設）</p> <p>作動試験を行う。</p> <p>（新設）</p> <p>1.7.5-32～1.7.5-35（略）</p> <p>1.7.6 復原性計算機等</p> <p>1.7.6-1.（略）</p> <p>（新設）</p>	<p>省令等改正</p> <p>省令等改正</p> <p>明確化</p>

改正後	改正前	備考
<p><u>とができる復原性計算機（区画規程 102 参照）</u></p> <p><u>正常に機能することを確認する。陸上支援を受ける場合にあっては、陸上において行われる損傷時の復原性に関する事項の計算の結果を速やかに利用することができる状態であることを確認する。</u></p> <p>1.7.7 荷役その他の作業の設備</p> <p>1.7.7-1. 揚貨装置、<u>ウインチ（アンカーハンドリングウインチを含む）</u>の性能試験は、附属書 E-5.1 及び 5.2 の定めるところによる。（設備規程第 5 編第 1 章参照）</p> <p>1.7.7-2.～1.7.7-3.（略）</p> <p>1.7.8（略）</p> <p>1.8（略）</p> <p>1.9 消防設備</p> <p>1.9.1～1.9.15（略）</p> <p>1.9.16 火災探知装置(消防設備規則 <u>50.1</u>、51.2 及び消防告示 34 参照)</p> <p>1.9.16-1～1.9.16-6（略）</p> <p>1.9.17～1.19.18（略）</p> <p>第 2 章 定期的検査等</p> <p>2.1～2.5 （略）</p> <p>2.6 一般設備</p>	<p>1.7.7 荷役その他の作業の設備</p> <p>1.7.7-1. 揚貨装置の性能試験は、附属書 E-5.1 及び 5.2 の定めるところによる。（設備規程第 5 編第 1 章参照）</p> <p>1.7.7-2.～1.7.7-3.（略）</p> <p>1.7.8（略）</p> <p>1.8（略）</p> <p>1.9 消防設備</p> <p>1.9.1～1.9.15（略）</p> <p>1.9.16 火災探知装置(消防設備規則 <u>51.2</u> 及び消防告示 34 参照)</p> <p>1.9.16-1～1.9.16-6（略）</p> <p>1.9.17～1.19.18（略）</p> <p>第 2 章 定期的検査等</p> <p>2.1～2.5 （略）</p> <p>2.6 一般設備</p>	<p>明確化</p>

改正後					改正前					備考
検査項目	定期	1 中	2 中	3 中	検査項目	定期	1 中	2 中	3 中	省令等改正
2.6.1～2.6.3（略）					2.6.1～2.6.3（略）					
2.6.4 航海用具					2.6.4 航海用具					
2.6.4-1～17（略）					2.6.4-1～17（略）					
2.6.4-17-2. 電子傾斜計 次の検査を行う。					（新設）					
(1) 自己診断機能により機能が正常な ことを確かめる。	○	○	○		（新設）					
(2) 電子傾斜計に対して安全距離が保 たれていることを確かめる。	○	○	○		（新設）					
2.6.4-18.～2.6.4-22.					2.6.4-18.～2.6.4-22.					
2.6.4-23. 次の装置について、作動試 験を行う。					2.6.4-23. 次の装置について、作動試 験を行う。					
(1)～(8)（略）					(1)～(8)（略）					
(9) 監視装置 <u>（録画・再生機能の作動 確認を含む。）</u>	○	○	A		(9) 監視装置	○	○	A		
(10)～(11)（略）					(10)～(11)（略）					省令等改正
2.6.4-24.（略）					2.6.4-24.（略）					
2.6.5 復原性計算機等					2.6.5 復原性計算機等					
2.6.5-1～2.6.5-2（略）					2.6.5-1～2.6.5-2（略）					
<u>2.6.5-3 旅客船の損傷時復原性に関す</u>	○	○			<u>（新設）</u>					

改正後					改正前					備考
<u>る事項を計算することができる復原性計算機</u> <u>正常に機能することを確認する。陸上支援を受ける場合にあっては、陸上において行われる損傷時の復原性に関する事項の計算の結果を速やかに利用することができる状態であることを確認する。</u>									明確化	
2.6.6 荷役その他の作業の設備					2.6.6 荷役その他の作業の設備					
2.6.6-1. 揚貨装置					2.6.6-1. 揚貨装置					
(1)～(3) (略)					(1)～(3) (略)					
<u>(4) 設備規程第 169 条の 6 に規定する荷重試験を行う。ただし、国際航海に従事しない船舶については、外観等が良好と認められる場合には、本試験を省略しても差し支えない。</u> <u>*1 2026 年 1 月 1 日以降に初めて行う定期的検査で実施した荷重試験後、5 年後の定期的検査の時期ごとに荷重試験を実施すること。</u> <u>*2 旅客船に限る。</u>	<u>○</u> <u>*1</u>	<u>○</u> <u>*1, 2</u>			<u>(新設)</u>				MSC.1/Circ1163	
<u>-2. アンカーハンドリングウインチ</u>										

改正後					改正前					備考
<u>(1)外観検査を行う。</u>	<u>○</u>	<u>○</u>	<u>○</u>							MSC.1/Circ1162
<u>(2)作動試験を行う。</u>	<u>○</u>	<u>○</u>	<u>○</u>							
<u>(3)警報装置の効力試験を行う。</u>	<u>○</u>	<u>○</u>	<u>○</u>							
<u>-3.</u> (略)					<u>-2.</u> (略)					
<u>-4.</u> (略)					<u>-3.</u> (略)					
附属書 E 設備の検査に関する附属書 1. ～ 3. (略) 4. 航海用具					附属書 E 設備の検査に関する附属書 1. ～ 3. (略) 4. 航海用具					
4.1.1 ～4.1.19 (略)					4.1.1 ～4.1.19 (略)					
<u>4.1.19-2 電子傾斜計 (用具告示 22-2)</u>					(新設)					
4.1.20 ～4.2 (略)					4.1.20 ～4.2 (略)					
5. 荷役その他の作業の設備(設備規程第 5 編第 1 章参照)					5. 荷役その他の作業の設備(設備規程第 5 編第 1 章参照)					
5.1 ～5.2 (略)					5.1 ～5.2 (略)					
<u>5.3 アンカーハンドリングウインチ</u>					<u>(新設)</u>					
<u>(1) 運転試験</u> <u>ドラム荷重でウインチ及びその操作装置が全動作範囲に</u> <u>おいて正常に作動することを確認する。</u>					<u>(新設)</u>					MSC.1/Circ1162

改正後	改正前	備考
<p><u>(2) ウインチシステムの機能試験</u></p> <p><u>静的ボラードプル力試験及びブレーキ試験を行う。ただし、試験によりブレーキ保持力を検証することが不可能な場合は、計算により検証することができる。</u></p> <p><u>(3) 荷重試験</u></p> <p><u>最大ライン引張力を上回る荷重により荷重試験を行う。また、過負荷時に発する可視可聴警報装置の効力試験を行う。</u></p> <p><u>(4) 非常用錨離脱装置試験</u></p> <p><u>ワイヤを陸上の強固な固定点、海底のアンカー又は同様の装置に取り付けた状態で実施する。緊急離脱後の残留ブレーキ保持力を試験により確認する。</u></p>		
<p>附属書 F 整備基準等</p> <p>1. ～ 21. (略)</p> <p>22. 救命艇、救助艇、進水装置及び離脱装置の保守、詳細検査、作動試験、オーバーホール及び修理に対する要件(決議 MSC.402(96)附属書)</p> <p>22 1～5 (略)</p> <p>6 点検、保守、詳細検査、作動試験、オーバーホール及び修理の具体的な手順</p> <p>6.～6.2.2 (略)</p> <p>6.2.3 (略)</p> <p>6.2.3.1～6.2.3.9 (略)</p>	<p>附属書 F 整備標準等</p> <p>1. ～ 21. (略)</p> <p>22. 救命艇、救助艇、進水装置及び離脱装置の保守、詳細検査、作動試験、オーバーホール及び修理に対する要件(決議 MSC.402(96)附属書)</p> <p>22 1～5 (略)</p> <p>6 点検、保守、詳細検査、作動試験、オーバーホール及び修理の具体的な手順</p> <p>6.～6.2.2 (略)</p> <p>6.2.3 (略)</p> <p>6.2.3.1～6.2.3.9 (略)</p>	

改正後	改正前	備考
6.2.3.10 換気装置(取り付けられている場合) 23. (略)	(新設) 23. (略)	MSC.559(108)